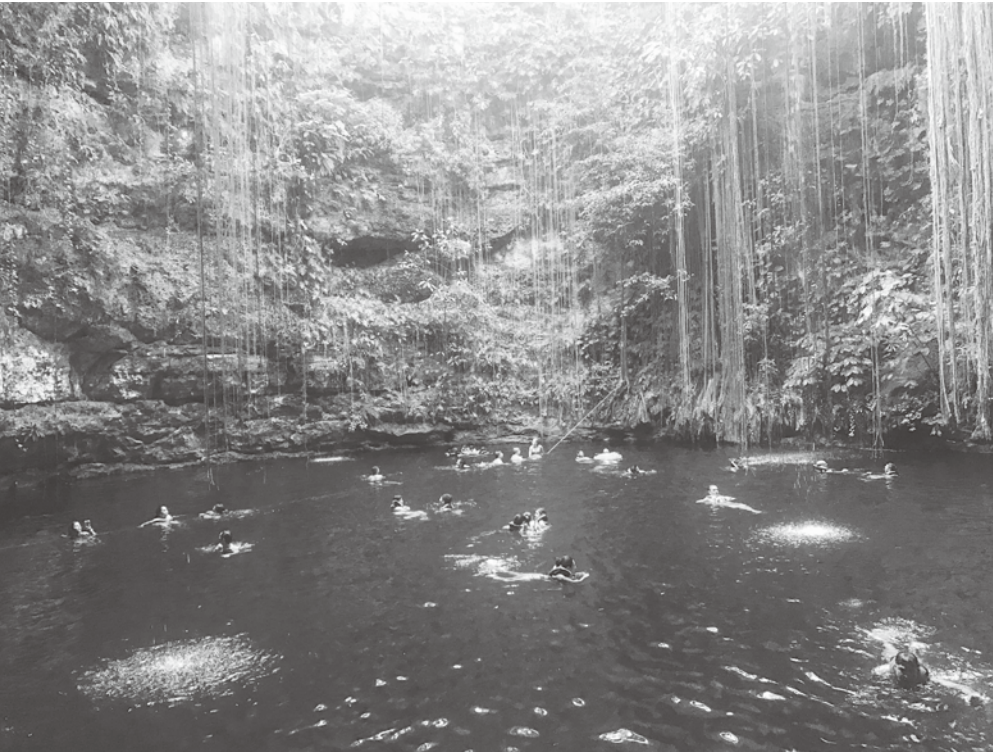


愛知芸術文化センター・
愛知県美術館オリジナル映像作品最新第28作

小田香『セノーテ』

2019年6月16日(日) 13時30分上映



愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品の最新第28作、小田香監督『セノーテ』(2019年)の初公開を行います。オリジナル映像作品は、1992年の愛知芸術文化センター開館以来、1年に1本のペースで、映像表現の新たな可能性を切り開く、実験的な作品を制作する機会を作家に提供してきました。シリーズを統一するテーマとして「身体」を設定していますが、このテーマにその年ごとの作家がどのような解釈をし、アプローチしてゆかが注目の一つとなります。

監督の小田香は、前作『鉱 ARAGANE』(2015年)で、ボスニア・ヘルツェゴビナのブレザ炭鉱に赴き、坑夫たちを密着取材して、暗闇の中で行われる過酷な労働とその環境を、静謐な映像で記録し注目を集めました。小田が今回挑むのは、一転して水中の世界です。メキシコ、ユカタン半島北部に点在する、セノーテと呼ばれる洞窟内の泉。水中撮影のため、ダイビングを学んで小田自ら撮影する、対象に身体ごと挑んでゆくアプローチは、『鉱 ARAGANE』から一貫するものです。

セノーテはかつてマヤ文明の時代、雨乞いの儀式のために生け贄が捧げられた場所であり、現在もマヤにルーツを持つ人々が近辺に暮らしています。小田は現代のこの地に住む人々にも取材し、集団の記憶や原風景を映像として立ち上げようと試みています。

『セノーテ』(原題: TS' ONOT 英題: CENOTE)

2019年、75分、デジタル

監督・撮影・編集: 小田香

企画: 愛知芸術文化センター

制作: 愛知県美術館

製作: cinevondaval、FieldRain

製作助成: おおさか創造千鳥財団、野村財団

現場録音: アウグスト・カスティージョ・アンコナ

整音: 長崎隼人

プロデューサー/現地オーガナイザー:

マルタ・エルナイス・ビダル

声の出演: アラセリ・デル・ロサリオ・チュリム・トゥム、

フォアン・デ・ラ・ロサ・ミンバイ



『セノーテ』制作風景



日時: 6月16日(日) 13:30~ 上映終了後、小田香監督によるトークを行います。

会場: 愛知芸術文化センター 12階アールスペースA 〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

主催: 愛知県美術館

Tel. 052-971-5511(代) Fax. 052-971-5604

<https://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

アクセス: 地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車
オアシス21連絡通路利用徒歩3分

[小田香 プロフィール]

2011年、ホリズ大学(米国)教養学部映画コースを修了。卒業制作である中編作品『ノイズが言うには』が、「なら国際映画祭2011」NARA-wave部門で観客賞を受賞。2013年、映画監督のタル・ペーラが陣頭指揮するfilm.factory(3年間の映画制作博士課程)に第1期生として招聘(2016年、同プログラムを修了)。2014年度ポーラ美術振興財団在外研究員。2015年に完成させた『鉱 ARAGANE』が「山形国際ドキュメンタリー映画祭2015」アジア千波万波部門にて特別賞を受賞。

入場無料

2018年、 第23回アートフィルム・フェスティバル イベント・レポート

1

2018年11月1日(木)

柴田剛『ギ・あいうえおス』二部作を一挙上映



上映に合わせて来館した柴田監督

「オリジナル映像作品」シリーズ第19作として制作された、柴田剛『ギ・あいうえおス - ずばぬけたかえうた -』(2010年)。この作品は映画の撮影スタッフが音を採取する旅に出る設定で、撮影行為がバンドの演奏活動でもあるような、非常に独特な作品でした。柴田監督は本作完成時より、この試みをさらに継続、発展させたいと、強く希望していました。その願いは6年の時を経て、山口情報芸術センター [YCAM] 委嘱の『ギ・あいうえおス 他山の石を以て己の玉を磨くべし』(2016年)として完成。さらに2年後のこの日、二本同時上映へと到ったのです。

2

2018年11月3日(土)

小森はるか『空に聞く』初公開



上映後のトークショーに登壇した小森監督

「オリジナル映像作品」シリーズ第27作の小森はるか『空に聞く』(2018年)がこの日、初公開。小森監督は、東日本大震災後の陸前高田に入り、長期滞在して、この地の歴史や記憶を、人々の営みに寄り添うように拘り取り、記録してきました。その活動の一つの結実ともいえる代表作『息の跡』(2016年)の、後日譚とっていい短編『根をほぐす』(2018年)に続き、『空に聞く』を上映。上映終了後のトークでは、『息の跡』と『空に聞く』は、当初、一本の作品としてまとめる構想があったという、創作の秘密の一端に触れる発言もありました。

2019年、 愛知芸術文化センターの 映像イベント・カレンダー

2019年、
映像表現の先端を、
愛知で目撃せよ。

6月16日(日)

愛知芸術文化センター・ 愛知県美術館オリジナル映像作品最新第28作 小田香『セノーテ』初公開

「オリジナル映像作品」は1992年の当センター開館時にスタート。映像表現の新たな可能性を切り開く作品を、一年一本のペースで制作、公開。国際映画祭での受賞等、高い評価を得ています。小田香『セノーテ』は、本シリーズ通算28本目に数えられる期待の最新作です。

8月1日(木) - 10月14日(月・祝)

あいちトリエンナーレ2019

オーディトリウム渋谷のプログラム・ディレクターや、山口情報芸術センター [YCAM] で映画・映像表現のキュレーターを務めた杉原永純が「映像プログラム」を担当。小森はるか、富田克也ほかの出品が予定されています。(主催：あいちトリエンナーレ実行委員会 Tel.052-971-6111)
URL: <http://aichitriennale.jp/>

11月8日(金) - 10日(日)

イメージフォーラム・フェスティバル2019

国内最大級の映像アートの祭典です。昨年より公募の対象を東アジア地域に拡大し、国際的かつより先鋭的な作品に触れる稀有な機会となっています。映像メディアの可能性と表現の多様性を、ぜひ体感してください。(共催：イメージフォーラム Tel.03-5766-0116)
URL: <http://www.imageforumfestival.com>

11月29日(金) - 12月8日(日)

第24回アートフィルム・フェスティバル

『セノーテ』の完成を受け、「アートフィルム・フェスティバル」では、この作品で試みられた、「映像における文化人類学的アプローチ」や「水中撮影」、「旅」等、キーワードに関連する作品も集めた特集上映を行います。

「あいちトリエンナーレ2019」映像プログラム、「イメージフォーラム・フェスティバル2019」、「第24回アートフィルム・フェスティバル」の詳細は、後日、各上映会ごとにチラシにてお知らせします。